

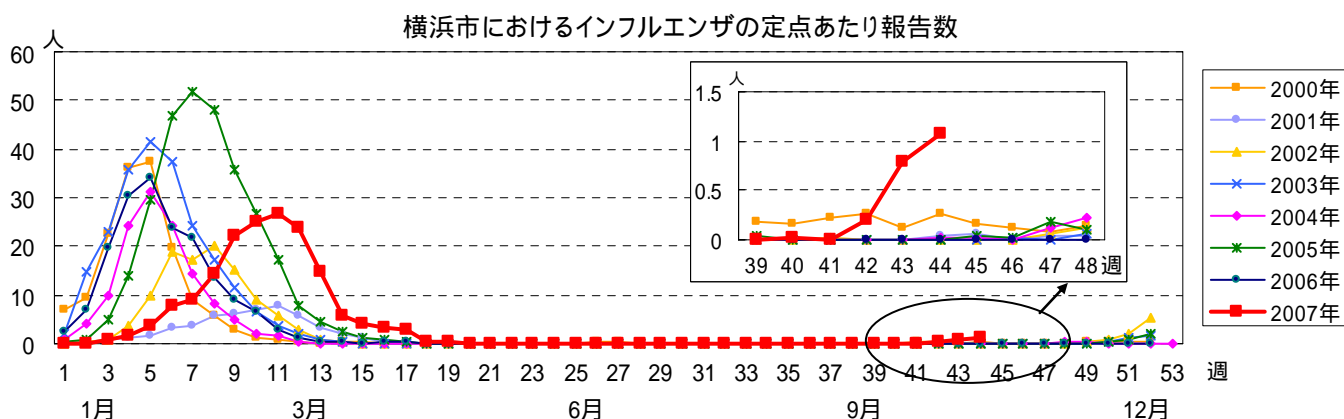
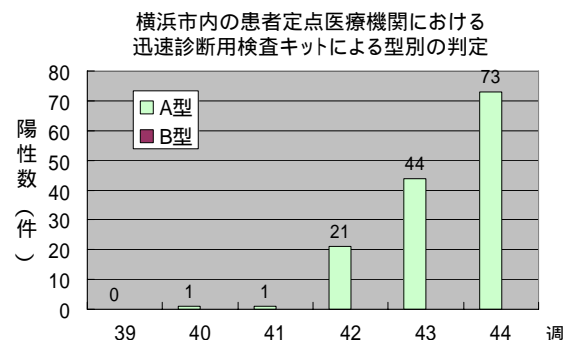
横浜市におけるインフルエンザ等の流行情報(その1)

1 今シーズンの感染症発生動向調査におけるインフルエンザの患者発生状況

横浜市では、第 44 週の定点あたり報告数は 1.07 で、**過去 6 年間の流行と比べて、最も早く流行の目やすとなる「1.0」を超えました。**例年流行開始は 12 月下旬から 1 月にかけてですが、今シーズンは流行が早まる可能性があり、早期のワクチン接種が望まれます。

また、横浜市内の患者定点医療機関のご協力で報告いただいた迅速診断用検査キットによる型別の判定(患者発生報告書に検査結果を記載いただいたものについての集計)をグラフに示しました。11 月 9 日現在、A 型のみ 140 の報告があり、B 型の報告はありません。

全国では、夏から流行が続いている沖縄県を除いて、流行期に入っている都道府県はありませんが、神奈川県 0.66、東京都 0.61、千葉県 0.61 と南関東で定点あたり患者報告数の増加が目立っています。



定点あたり患者報告数	第 40 週	第 41 週	第 42 週	第 43 週	第 44 週
全国	0.10	0.10	0.12	0.20	0.26
東京都	0.11	0.08	0.16	0.39	0.61
神奈川県(全県)	0.04	0.08	0.23	0.57	0.66
横浜市	0.01	0.01	0.21	0.80	1.07
川崎市	0.06	0.09	0.08	0.13	0.52
県域	0.05	0.13	0.30	0.57	0.42

2 今シーズンの病原体定点等の検体からのインフルエンザウイルス分離状況について

臨時情報でお伝えしたように、横浜市内の病原体定点の検体からは、ここ数年間は大きな流行が見られなかった A ソ連型が検出されており、今後の動向に、よく注意していく必要があります。今シーズンからワクチン株として使われている A/Solomon Islands/3/2006 は、横浜市内で昨シーズンから検出されているウイルス株と類似であるため、ワクチンの効果が期待できます。

インフルエンザワクチンについて(http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/infection_inf/influvaccine1.htm)

国立感染症研究所の病原微生物検出情報によれば、11 月 8 日現在、全国の地方衛生研究所のインフルエンザウイルス分離状況は、AH1 型 45 例、AH3 型 2 例で、B 型の報告はありません。

3 今シーズンの学校等における集団かぜについて

11 月 6 日、市内で今シーズン初めての集団かぜの報告が、港北区の小学校(1 年生)からありました。過去 3 シーズンと比べて、最も早い報告でした。(<http://www.city.yokohama.jp/ne/news/press/200711/20071106-025-3337.html>)

最新の情報については http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/infection_inf/ をご覧ください。